



2026年7月30日

各位

会社名 モロゾフ株式会社
代表者名 代表取締役社長 山口 信二
(コード番号 2217 東証プライム市場)
問合せ先 代表取締役専務 磯野 健治
(TEL. 078-822-5000)

業績予想および配当予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向を踏まえ、2026年3月13日に公表いたしました連結業績予想および配当予想を下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

記

1. 2027年1月期第2四半期(中間期)連結業績予想(2026年2月1日～2026年7月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 中間純利益	1株当たり 中間純利益
前回発表予想(A)	百万円 16,420	百万円 450	百万円 480	百万円 370	円 銭 18.43
今回修正予想(B)	16,240	70	170	70	3.49
増減額(B-A)	△180	△380	△310	△300	
増減率(%)	△1.1	△84.4	△64.6	△81.1	
(ご参考) 前期第2四半期実績 (2026年1月期第2四半期)	16,192	424	468	271	13.43

2. 2027年1月期通期連結業績予想(2026年2月1日～2027年1月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 36,820	百万円 1,310	百万円 1,350	百万円 770	円 銭 38.34
今回修正予想(B)	36,670	520	620	290	14.45
増減額(B-A)	△150	△790	△730	△480	
増減率(%)	△0.4	△60.3	△54.1	△62.3	
(ご参考) 前期実績 (2026年1月期)	36,273	1,264	1,286	642	31.85

3. 連結業績予想の修正の理由について

当第2四半期（中間期）の売上高につきましては、焼菓子はレギュラー商品の好調に加え、新ブランド商品の貢献により好調に推移いたしました。バレンタイン商戦の売上が想定以上に前期1月への前倒しとなったことや、天候要因などによる夏期商戦の低迷により前回予想を下回る見込みとなりました。

損益面につきましては、価格改定や商品設計の変更などの原価低減対策を講じたものの、減収に加え、想定以上の原材料価格の高騰や新船橋工場の減価償却費が前倒しで発生したことなどによる費用の上昇を吸収しきれず、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する中間純利益ともに、前回予想を下回る見込みとなりました。

通期連結業績予想につきましては、これまで以上に原価低減対策を進めつつ売上高を確保していく計画ですが、ナフサ由来の原材料の上昇が損益に大きく影響する見込みであり、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は前回予想を下回る見込みです。

特に5月以降における想定以上の売上原価率の上昇や、物流費など経費の増加が明らかになったことに加え、これまで精査を進めておりましたナフサ不足による影響額が見込めたため、本日の公表に至りました。

（注）上記の業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報により作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる場合があります。

4. 配当予想の修正について

	年間配当金			
	第2四半期末	期末	合計	配当性向
	円 銭	円 銭	円 銭	%
前回予想 (2026年3月13日発表)	6.00	10.00	16.00	41.7
今回修正予想	5.00	5.00	10.00	69.2
(ご参考) 前期実績 (2026年1月期)	6.00	10.00	16.00	50.2

5. 配当予想修正の理由

当社は、利益配分につきましては、持続的な成長と企業価値向上のための投資や、様々なリスクに備えるための財務健全性とのバランス、経営成績の見通しなどを考慮したうえで、業績に応じた利益配分を行うことを基本方針とし、連結配当性向40%程度、連結総還元性向50%程度を目安に配当することとしております。

2027年1月期の配当予想につきましては、基本方針に基づきますと前期に対して大幅な減配となる見込みです。これを踏まえ、株主の皆様への還元を考慮し、当期につきましては配当性向70%程度を目安とすることといたしました。これにより、前回予想（2026年3月13日公表）を下回ることとはなりますが、1株当たり第2四半期末（中間）配当予想を6円から5円に、期末配当予想を10円から5円に修正することといたしました。この結果、当期の年間配当金は10円となる予定です。

以 上